

Microsoft Visual Studio ライセンス

2020 年 3 月発行

この文書は、マイクロソフト製品の知的財産に対する法的権利を付与するものではありません。
お客様は、本文書を内部での参照を目的として複製し、使用することができます。



目次	
はじめに	5
Visual Studio 2019 ライセンスの概要	5
ユーザー	5
Azure DevOps Server 環境	6
Azure DevOps	6
購入方法	7
Visual Studio 2019 オファリングおよび購入チャネル	7
Visual Studio Community 2019	8
ソフトウェアを使用できる人	8
Visual Studio サブスクリプションの更新およびアップグレード	9
標準サブスクリプション	9
標準サブスクリプションのアップグレード オプション	9
ダウングレード更新	10
クラウド サブスクリプション	10
Azure DevOps の購入	11
その他のチャネル	11
ユーザー ライセンス	12
プログラムの設計、開発、テスト、およびデモンストレーションを行うためのライセンスを取得	12
含まれるソフトウェアおよびダウングレードの権利	12
異なるライセンスを取得したユーザーは同じソフトウェアを実行可能	13
ソフトウェアをインストールおよび実行できる場所	13
Visual Studio サブスクリイパー向けの追加の使用権および特典	14
Office Professional Plus 2019 および Office 365 ProPlus	14
Visual Studio Azure DevOps Server の運用環境での使用	14
Visual Studio サブスクリイパー向けの月間 Microsoft Azure クレジット	14
Visual Studio サブスクリイパー 向け Azure DevOps の特典	14
クラウド使用権: Microsoft Azure VM でのサブスクリイパー ソフトウェアの実行	15
クラウド使用権: 専用ホスト型クラウド サービスでのサブスクリイパー ソフトウェアの実行	16
Lab Management	16
ロード テスト	16
SQL Server Parallel Data Warehouse Developer	16
IntelliTrace	17



含まれるソフトウェアが独自の条件の対象となる場合	17
プレリリースおよび試用版ソフトウェア	17
SDK、DDK、Feature Pack、およびパターンとプラクティスのリリース	17
Windows Embedded	18
IntelliTrace Collector および Microsoft Management Agent	18
Remote Tools	18
ライセンスを取得していないユーザーがソフトウェアを使用できるシナリオ	18
ターミナル サービスを使用したデモンストレーション	18
受け入れテスト	18
フィードバック	19
特定のソフトウェアをお客様のアプリケーション内で他者に頒布できる方法	19
その他のガイダンス	19
「開発者デスクトップ」上の Windows が別個のライセンスを必要とする場合	19
仮想環境において別個のライセンスを必要とする場合	20
開発およびテスト環境の監視および管理に必要とされる管理ライセンス	20
永続的使用権	20
ライセンスの再割当	21
インストール画像の一部としてのソフトウェアの頒布	21
外部事業体 (ソリューション プロバイダー、独立した契約者、海外の開発センターなど) に対する Visual Studio サブスクリプション の割当	22
Microsoft Partner Network (MPN) を介した Visual Studio サブスクリプション	22
プロダクト キーおよびインストール ソフトウェア	23
サブスクライバー ダウンロードから取得したが、運用ライセンスに基づきライセンスを取得したソフトウェアの使用	23
ソフトウェアのアクティベーション	23
Visual Studio Azure DevOps Server 2019 ライセンス	23
Visual Studio Azure DevOps Server 2019 の取得	24
Azure DevOps Server をライセンス許諾するための一般的なガイダンス	24
Azure DevOps Server に関するサーバーのライセンス要件	25
サーバー ライセンスの再割当	25
ビルド サーバー上での Visual Studio の使用	25
Azure DevOps Server に関するクライアント ライセンス要件	26
クライアント アクセス ライセンスを必要としない場合	26
CAL 以上のものを必要とするサーバー機能	27
ユーザー CAL かデバイス CAL の選択	27
CAL の非調整を軽減することにはならないマルチプレキシングおよびプーリング	27
リリース管理	28
Azure DevOps Server のダウングレード権	28
ソフトウェア アシユアランスに基づく Azure DevOps Server	29

Azure DevOps とローカルビルド サーバーの接続.....	29
Azure DevOps Server へのアクセス方法.....	29
導入オプション.....	29
マルチ サーバー (二層) 導入.....	30
Azure DevOps Build Services.....	30
Lab Management ライセンス.....	30
Lab Management コンポーネント.....	31
Lab Management ライセンス.....	31
付録.....	32
詳細情報.....	32
Visual Studio を評価する.....	32
トレーニング環境のライセンス.....	32
Visual Studio サブスクリプションの移行の履歴.....	33
Visual Studio 2015.....	33
Visual Studio 2013.....	33
Visual Studio 2012.....	33
Visual Studio 2010.....	33
Visual Studio 2008.....	34
Visual Studio 2005.....	34
ライセンスに関するホワイト ペーパーの変更ログ.....	35

はじめに

Visual Studio 2019 は、Windows、Android、および iOS 向けの優れたアプリケーションのほか、最新の Web アプリケーションおよびクラウド サービスを作成するための豊富な統合開発環境を提供します。Visual Studio 2019 はまた、包括的で柔軟性の高いアプリケーション ライフサイクル管理 (ALM) ツールを提供します。Visual Studio サブスクリプションは、お客様に対し、SQL Server/Windows/Windows Server などのマイクロソフトのプラットフォーム ソフトウェアの 31 の開発/テスト用の使用権、月間の Microsoft Azure クレジット、Windows Store にアプリを発表するための開発者アカウント、および Office 365 Developer サブスクリプションなど、サブスクリイパー向けに価値の高い特典を提供します。

以下に、Visual Studio 製品ラインの概要と、一般的な導入シナリオにおける当該製品のライセンス要件を記載しています。ボリューム ライセンスの顧客である場合、ライセンス条件の正式なガイドは、[マイクロソフト ライセンス製品条項](#)およびお客様のライセンスプログラム 契約です。小売店舗のお客様の場合、ライセンス条項はお客様の製品に含まれる小売ソフトウェア ライセンス条項に定められています。

Visual Studio 2019 ライセンスの概要

主な Visual Studio 2019 オフリングとともに、原則的に、ライセンスを購入していただくものが 2 つあります。

1. ユーザー
2. Visual Studio Azure DevOps Server 環境

さらに、お客様のチーム向けの Azure DevOps を購入することもできます。これは、他の Microsoft Azure サービスと共に請求されます。

ユーザー

ユーザーにライセンスを許諾する主な方法は、ソフトウェア開発プロジェクトに参加する各ユーザーに対して、適切なレベルの Visual Studio サブスクリプションを購入することです。Visual Studio のサブスクリプションに含まれるソフトウェア、サービス、およびサポートはレベルによって異なりますので、お客様は、[Visual Studio のサブスクリプションの比較](#)を参考のうえ、各チーム メンバーのニーズに合った適切なレベルを決定する必要があります。個々のサブスクリイパーがインストールおよび実行できる Visual Studio ソフトウェアおよびその他のマイクロソフト ソフトウェアは、ユーザーのサブスクリプションが有効である間、サブスクリイパーダウンロードにおいて当該 Visual Studio のサブスクリプション レベルで何が利用できるかによって決まります。

Visual Studio サブスクリプション オプション:

- A. 標準サブスクリプション (Microsoft ストアおよびボリューム ライセンス リセラーを介して販売):
 - [Visual Studio Enterprise Subscription \(IE MSDN\)](#)
 - [Visual Studio Test Professional Subscription \(ITP MSDN\)](#)
 - [Visual Studio Professional Subscription \(IP MSDN\)](#)
 - [MSDN Platforms](#)

B. クラウド サブスクリプション ([Visual Studio Marketplace](#) を介して販売):

- [Visual Studio Enterprise – 月間](#)
- [Visual Studio Professional – 月間](#)

Azure DevOps Server 環境

[Azure DevOps Server](#) 環境とは、ソフトウェア開発者、テスター、プロジェクト マネージャー、ステークホルダー、およびソフトウェア開発チームのその他の参加者が、協力し、ソース コードを管理し、作業の管理および優先度付けを行い、アプリケーションのビルドを作成するなど、あらゆる環境をいいます。お客様には、この環境におけるサーバーごとに、Windows Server および Azure DevOps Server ライセンス、さらにこれらのサーバーに接続するユーザーごとに、Windows Server および Azure DevOps Server クライアント アクセス ライセンス (CAL) を購入していただきます。Microsoft SQL Server 2019 Standard は、Azure DevOps Server と併用する場合、Azure DevOps Server ライセンスに含まれます。

Azure DevOps

[Azure DevOps](#) は、お客様のチームが使用するために広範囲で拡張される、クラウドベースのアプリケーション ライフサイクル管理および DevOps 機能を提供します。Azure DevOps アカウントの作成は無料です。

また、Azure DevOps アカウントには、ステークホルダーおよび[有効な Visual Studio サブスクリイバー](#)を必要なだけ無料で追加することができます。すべての Visual Studio サブスクリイバーは、アカウントへの基本アクセスを取得します。さらに、特定の Visual Studio サブスクリプションには、[Azure Test Plan](#) や [Package Management](#) 拡張などの、追加機能が含まれます。[Visual Studio Marketplace](#) は、拡張を通じて多くの追加機能を提供します。それらの大半は無料で提供されます。

無料のステークホルダーおよび Visual Studio サブスクリイバーに加え、アカウント内で、5 名の無料ユーザーが以下にアクセスすることができます。

バージョン コントロール、アジャイル プランニングなどの基本的な機能。その後、お客様は、[Azure DevOps](#)。お客様はさらに、ビルドやリリース、[ホステッド パイプライン](#)、[プライベート パイプライン](#) およびクラウドベースのロード テストなど、アカウント全体によって使用される追加サービスを購入することもできます。

購入方法

Visual Studio 製品は、以下のとおり、様々な販売チャネルを通して提供されます。

Visual Studio 2019 オフリングおよび購入チャネル

		Visual Studio Enterprise サブスクリプション	Visual Studio Professional サブスクリプション	MSDN Platforms	Visual Studio Test Professional サブスクリプション	Team Foundation Server 2018	Visual Studio Professional 2019	Visual Studio クラウド サブスクリプション
マイクロソフト ボリューム ライセンス	エンタープライズ、エンタープライズ サブスクリプション	✓	✓	✓	✓	✓		
	セレクト、セレクト プラス、MPSA	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
	オープン バリュー、オープン バリュー サブスクリプション	✓	✓	✓	✓	✓		
	オープン	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
	キャンパス、登録 教育機関向けソリューション	✓	✓	✓	✓	✓		
小売チャネル	Microsoft ストア (オンラインのみ)	✓	✓		✓		✓	
Microsoft Azure	Visual Studio Marketplace							✓

各マイクロソフト ボリューム ライセンス プログラムには、特定のルールと特典が定められていますが、お客様が適切な選択を行うためにこれらを理解できるよう、ソフトウェア リセラーが支援します。ボリューム ライセンスおよび上記プログラムの詳細については、以下を参照してください。www.microsoft.com/licensing.

Visual Studio Community 2019

[Visual Studio Community 2019](#) は、プラットフォームまたはデバイスを問わず、非エンタープライズ アプリを構築する開発者向けの機能をフル装備した無料の IDE です。これには、強力な生産性機能、Windows、iOS および Android 向けのモバイル開発ツール、および何千もの拡張機能へのアクセスを含む、魅力的な非エンタープライズ アプリケーションを作成するために必要なすべての機能が含まれます。

ソフトウェアを使用できる人

Visual Studio Community を使用する権利は、以下に説明するとおり、顧客セグメントおよび使用シナリオによって異なります。

個人開発者

個人開発者は、Visual Studio Community を自らの無料または有料のアプリを作成するために使用することができます。さらに、ユーザーは、人数に制限なく、ソフトウェアを使用して、Windows オペレーティング システム用のデバイスドライバーを開発およびテストすることができます。

組織

- 組織内のユーザーは、人数に制限なく、以下のシナリオで Visual Studio Community を使用することができます。教室学習環境、学術研究、またはオープン ソース プロジェクトへの貢献。
- ユーザーは、人数に制限なく、ソフトウェアを使用して、Windows オペレーティング システム用のデバイスドライバーを開発およびテストすることができます。
- その他すべての使用シナリオ: 非エンタープライズ組織では、最大 5 名のユーザーが Visual Studio Community を使用することができます。エンタープライズ組織 (250 台を超える PC を有する組織、または年間売上高が 100 万ドルを超える組織) においては、上記のオープン ソース、学術研究および教室学習環境のシナリオ以外に、従業員および契約者に対しては使用が許可されていません。

事例 1: ある大学が、「データ構造およびプログラミング」科に在籍している学生のトレーニングのため、およびクロスプラットフォーム モバイル アプリケーションを構築する必要のある「Big Data」学術研究プロジェクトのために、Visual Studio Community 2019 を使用することを希望しています。さらに、その大学は、ERP ソフトウェアのカスタマイズ、および内部 LOB アプリケーションを通じたプロセスの自動化を計画しています。学術機関が教室学習環境や学術研究用に Visual Studio Community 2019 を使用することは認められているため、その大学は、授業課程および研究プロジェクトにおいてソフトウェアを使用することができます。ただし、内部 LOB アプリケーションの開発およびテストのために、Visual Studio Community 2019 を使用することはできません。

事例 2: フォーチュン 500 に掲載されたある企業は、店舗位置情報モバイル アプリケーションの開発を小規模の代理店に外注しています。そのアプリケーションは、オープン ソース プロジェクトではありません。代理店では、このプロジェクトに従事する従業員は 5 名であり、Visual Studio Community 2019 を使用したいと考えています。代理店は、フォーチュン 500 に掲載された企業のためにこのアプリケーションを開発する契約者であり、アプリケーションがオープン ソース プロジェクトではないため、代理店は、アプリケーションの開発およびテストの目的で Visual Studio Community 2019 を使用することはできません。

事例 3: フォーチュン 500 に掲載されたある ISV は、オープンソース協会 (OSI) 承認のオープンソースソフトウェアライセンスに基づきリリースされるモバイルアプリケーションを扱っています。このアプリケーションの開発およびテストを行う従業員と契約者は、Visual Studio Community 2019 を使用することができます。

事例 4: あるプリンターの製造会社は、プリンター用のドライバーを開発する必要があります。この会社は、Visual Studio Community を使用して、ドライバーの開発およびテストを行うことが認められています。

Visual Studio サブスクリプションの更新およびアップグレード

標準サブスクリプション

まもなく有効期限が切れる Visual Studio の標準サブスクリプションは、費用効率的に更新することができます。お客様は、すでに所有している Visual Studio 開発ツールの新たなライセンスではなく、新バージョンのソフトウェアを受領する継続的な権利、新たなプロダクト キーとその他の有効期限が切れるサブスクリプションの特典にアクセスする権利に対してのみ支払いを行うため、更新価格は、新たに Visual Studio サブスクリプションを購入するよりも、大幅に低くなります。

小売 Visual Studio サブスクリプションは、毎年更新する必要があります。更新猶予期間、すなわち、Visual Studio サブスクリプションの有効期限が切れた時点から、顧客が更新価格で更新するオプションを失う時点までの期間は、30 日間です。

大半のボリューム ライセンス プログラムに基づき購入された Visual Studio サブスクリプションは、ボリューム ライセンス契約または加入契約が終了するまで有効です。ただし、セレクト プラス契約 (満了していないもの) は例外です。セレクト プラスに基づく購入は、購入日から 3 年間存続し、サブスクリプションの期間終了日と契約の応当日を調整するオプションもあります。

すべてのボリューム ライセンス プログラムについて、Visual Studio サブスクリプションは、ボリューム ライセンス契約に基づき定められた期限までに製品のソフトウェア アシュアランス (SA) バージョンを購入することで更新する必要があります。これらの期限はプログラムによって異なりますが、契約署名時に有効な条件によって異なる場合もあります。

標準サブスクリプションのアップグレード オプション

更新時 (この場合、お客様は、旧レベルと同じサブスクリプションの更新、およびサブスクリプションをアップグレードする「ステップアップ」ライセンスの両方を購入する必要があります)、またはサブスクリプションの期間中の別の時点で、有効な Visual Studio サブスクリプションをアップグレードすることができます。

		アップグレード前:	Visual Studio Professional サブスクリプション	Visual Studio Test Professional サブスクリプション
		アップグレード後:	Visual Studio Enterprise サブスクリプション	Visual Studio Enterprise サブスクリプション
マイクロソフト ボリューム ライセンス	エンタープライズ、エンタープライズ サブスクリプション		✓	✓
	セレクト、セレクト プラス		✓	✓
	オープン バリュー、オープン バリュー サブスクリプション		✓	✓

アップグレードは他のプログラムでは利用できませんが、小売およびオープン ライセンスのお客様 (ステップアップ ライセンスが利用できない場合) は、オープン バリュー プログラムに更新し、即時にステップアップを購入することでなおステップアップ ライセンスを利用することができます。

ダウングレード更新

ボリューム ライセンス チャンネルを通じて購入するお客様は、より高いレベルの Visual Studio 標準サブスクリプションから、より低いレベルのサブスクリプションに「ダウングレード更新」すること、つまりあるライセンスを別のライセンスに効果的に交換することができます。その際、お客様は、旧版の Visual Studio サブスクリプションに関するすべての権利を失い、かかるサブスクリプションの一部として利用していた製品のうち、新たなサブスクリプションに基づき利用できないものについては、その使用を直ちに中止する必要があります。

事例: ある組織は、開発チーム全体で Visual Studio Enterprise サブスクリプションを使用しています。組織は、予算削減により、すべてのサブスクリプションを Visual Studio Professional サブスクリプションにダウングレード更新することを決定しました。組織がダウングレード更新を行う場合、サブスクリイバーは、直ちに Visual Studio Enterprise の使用を中止し、これをアンインストールする必要があります。これにより、Visual Studio Enterprise の機能を今後利用することはできなくなります。サブスクリイバーは、Microsoft Office、Microsoft Dynamics、SharePoint Server のほか、Visual Studio Enterprise サブスクリプションに含まれているものの、Visual Studio Professional サブスクリプションには含まれていない他の多くの製品を使用する権利も失います。

クラウド サブスクリプション

Visual Studio クラウド サブスクリプションは、毎月自動的に更新されます。永続的ソフトウェア ライセンスが含まれていないため、価格は毎年同じです。毎年同じということは、「新規」または「更新」オプションがないということです。アップグレードまたはダウングレードが複雑ではないため、毎月希望するサブスクリプションを選択するだけで更新することができます。

Azure DevOps の購入

多くの場合、[Azure DevOps](#) を使用する際に購入する必要はありません。アカウントに加入する有効な Visual Studio サブスクリイバーに追加料金は設定されておらず、各 Azure DevOps アカウントには、5 名の無料ユーザーが含まれており、アカウントごとのステークホルダーは無制限です。さらに、アカウントごとに利用可能な特定の追加サービス (たとえば、ビルドおよびリリース ホステッド パイプライン、ビルドおよびリリース プライベート パイプライン、クラウドベースのロード テストなど) が無料で用意されています。

有料の Azure DevOps の請求は、Microsoft Azure を通じて行われます。Azure DevOps は、完成した Azure サービスであるため、Azure DevOps アカウントを実行するために使用される基礎となるインフラストラクチャ (VM、ストレージ、帯域幅など) に対する支払いを行う必要はありません。

Team Services の購入の一環として、お客様は、[Azure サブスクリプション](#)をまだ所有していない場合には、これを作成する必要があります。Azure サブスクリプションは、クレジットカードまたは[請求書](#)を通じた支払いなど、支払条件を定めています。

その他のチャネル

特定の Visual Studio 製品は、以下を含む、他の マイクロソフト プログラムを通じて購入することができます。

- [サービスプロバイダーライセンス契約 \(SPLA\)](#): Visual Studio Azure DevOps Server、Visual Studio Enterprise、Visual Studio Professional、および Visual Studio Test Professional は、参加するホステッド ソリューション パートナーを通じてサブスクリプション ベースで利用することができます。パートナーは、リモート接続する独自のハードウェアで実行するソフトウェアを提供します。これらは、Visual Studio サブスクリプション オファリングではありません。SPLA の使用条件は、[サービスプロバイダー製品使用権説明書 \(SPUR\)](#) に規定するとおりとします。
- [Microsoft ISV Royalty ライセンス プログラム](#)は、顧客に頒布する完成したソフトウェア アプリケーションに Visual Studio または他のマイクロソフト製品を含めることを希望する ISV 向けのプログラムです。

さらに、Visual Studio サブスクリプションまたは Visual Studio は、特定のマイクロソフト プログラムに基づくプログラム特典として提供されます。

- [Microsoft Partner Network](#): 1 以上のコンピテンシーを有するパートナーは、エンド ユーザーに割り当てる必要がある、Visual Studio Enterprise サブスクリプションを取得します。Visual Studio サブスクリイバーは、ソフトウェアを使用する前にこれをアクティブ化する必要があります。これらのサブスクリイバーは、再販禁止 (NFR) の MSDN サブスクリプションの[小売ライセンス条項](#)に従い、ソフトウェアを使用することができます。Microsoft Partner Network を通じて提供されるソフトウェアは、コンサルティング サービスの提供、特定の顧客向けのパッケージ化アプリケーションのカスタマイズ、または顧客向けのカスタム アプリケーションの構築など、直接的な収益が発生する活動のために有料で使用することはできません。パートナーは、マイクロソフトのプラットフォーム上でパッケージ化アプリケーションを構築するなど、間接的な収益が発生する活動に Visual Studio サブスクリプションを使用することができます。これらはその後、顧客に対してマーケティングおよび販売を行うことができます。
- [Microsoft for Startups](#): Microsoft for Startups は、マイクロソフトのソフトウェア開発ツールへのアクセス権を付与し、投資家などの重要な業界関係者を紹介し、企業家による起業の一助としてマーケティングの可視化を可能にすることで、ソフトウェアのスタートアップを支援する世界的なプログラムです。Microsoft for Startups を介して提供された Visual Studio Enterprise サブスクリプションは、再販禁止 (NFR) の MSDN サブスクリプションの[小売ライセンス条項](#)の対象となります。
- [Microsoft Imagine \(旧 DreamSpark\)](#): 教育的な使用のために (指導、授業課程、および非営利的な研究など)、機関ごとに少額にて、学術機関の学生、教員および職員向けのツールを提供します。

キャンパス基本契約/EES および Microsoft Volume の OVS/ES プログラムに参加する学術機関
ライセンスは、追加費用なく DreamSpark へのオンライン サブスクリプションを受け取ります。Microsoft Imagine を通じてライセンス許諾されるソフトウェアには、とりわけ、Visual Studio Professional、Windows Server、および SQL Server が含まれます。さらに、高等教育機関の科学、技術、工学および数学 (STEM) 科は、広範なマイクロソフトのソフトウェア タイトルへのアクセスを提供する、Microsoft Imagine Premium サブスクリプションを受けられます。Microsoft Imagine サブスクリプションの特典を利用するには、学術機関のお客様は、アカデミック ポリウム ライセンス契約番号およびアカデミック ポリウム ライセンス サブスクリプションのウェルカム レターに含まれる適切な Microsoft Imagine プロモーションコードを用いて <https://catalog.imagine.microsoft.com/en-us/Institutions/Enroll> に登録する必要があります。Microsoft Imagine サブスクリプションを有していない機関の学生は、ソフトウェアへの無償アクセスについて、Microsoft Imagine のサイトで学生のステータスを確認することができます。 <https://imagine.microsoft.com/en-us/account>

特定の Visual Studio サブスクリプションの使用権の追加または排除については、各プログラムの条件をご確認ください。

ユーザー ライセンス

プログラムの設計、開発、テスト、およびデモンストレーションを行うためのライセンスを取得

すべての Visual Studio サブスクリプションおよび Visual Studio Professional は、ユーザーごとにライセンスが許諾されます。ライセンスを取得した各ユーザーは、そのプログラムの設計、開発、テストおよびデモンストレーションを行うために、任意の数のデバイスにソフトウェアをインストールして使用することができます。また、Visual Studio サブスクリプションにより、ライセンスを取得したユーザーはソフトウェアを評価することができ、プログラムに関連する問題を診断するために顧客環境をシミュレートすることもできます。この方法でソフトウェアを使用するそれぞれの追加の担当者もライセンスを有する必要があります。

含まれるソフトウェアおよびダウングレードの権利

Visual Studio サブスクリプションの場合、含まれているソフトウェアは、ユーザーのサブスクリプションが有効である間、[サブスクライバー ポータル](#)を通じてサブスクライバーに提供されるソフトウェア、および当該いずれかのソフトウェアの旧版にダウングレードする権利 (サブスクライバー ポータルで利用できないレガシ ソフトウェア バージョンの場合) であると定義されます。Visual Studio サブスクリプションには、現在のバージョンのソフトウェア、および過去 10 年間に遡る多くの旧バージョンが含まれており、多くの場合、様々なソフトウェア開発およびテスト シナリオをサポートするために同じ製品の異なる複数のエディション (Standard、Enterprise、Datacenter など) を備えています。さらに、Visual Studio のサブスクライバーは、定期的に、ソフトウェアの新バージョンへのアクセス権を、リリースされたときに取得します。

サブスクライバー ポータルには誰でもアクセスでき、特定のダウンロードを検索し、詳細をクリックしてダウンロードが公開された日付およびこれをダウンロードするためのアクセス権を有するサブスクリプション レベルについて確認することができます。これを閲覧するにはサブスクライバーである必要はありませんが、ダウンロードするためには、サブスクライバーとなる必要があります。各 Visual Studio サブスクリプションに含まれるソフトウェアの詳細な概要については、[サブスクリプションの比較](#)を行うことができます。

Visual Studio Professional 2019 のスタンドアロン ライセンスについては、ライセンスに含まれるソフトウェアは、ソフトウェアの現在のバージョン、Visual Studio Professional 2019、およびお客様が別途アクセス権を有することのある旧バージョンの Visual Studio Professional を同時に実行するためのダウングレードの権利です。

このユーザー ライセンス のセクションにおいて、ライセンスに含まれるソフトウェアを「ソフトウェア」といいます。

異なるライセンスを取得したユーザーは同じソフトウェアを実行可能

ソフトウェアを使用 (インストール、構成、またはアクセス) する開発チームの各メンバーは、自らの Visual Studio サブスクリプションを有している必要があります。各自が Visual Studio サブスクリプションを有する場合、複数の個人が同じソフトウェアを使用することができます。

事例 1: ある開発チームは、6 名のソフトウェア開発者、1 名のアーキテクト/開発者、および 3 名のテスターで構成されています。チームは、社内 Web ベースの会計システムを構築しており、Windows Server 2012 および Microsoft SQL Server 2014 を実行するテスト環境をセットアップするためのソフトウェアを使用したいと考えています。10 名のチームメンバー全員が開発またはテスト環境にアクセスする場合、それぞれに Visual Studio サブスクリプションが必要になります。両方の製品を含む最小サブスクリプションレベルは、Visual Studio Professional - 年間、Visual Studio Professional サブスクリプションおよび Visual Studio Test Professional サブスクリプションです。

事例 2: ある組織には、2 つの開発チームがあり、1 つはシアトル、もう 1 つはシンガポールに拠点を置いています。時差があるため、2 つのチームの勤務時間が重なることはありません。ただし、Visual Studio のサブスクリプションライセンスは共有できないため、各場所の各チームメンバーは、各自の Visual Studio サブスクリプションを所有している必要があります。

事例 3: 組織の IT 部門のあるシステムエンジニアは、開発チームに必要なソフトウェアをインストールしています。開発チームの各メンバーは、中央で管理されたハードウェア上で、Visual Studio サブスクリプションのライセンスを取得しています。このシステムエンジニアは、ソフトウェア開発またはテストを行っていません。マイクロソフトソフトウェアの使用 (インストールはソフトウェアの使用に含まれます) にはライセンスが必要となるため、この環境で使用しているすべてのソフトウェアについて運用環境で使用するライセンスを取得するか、またはシステムエンジニアがインストールしているソフトウェアを含む Visual Studio サブスクリプションをそのシステムエンジニアのために取得する必要があります。

ソフトウェアをインストールおよび実行できる場所

ライセンスを取得したユーザーは、任意の数のデバイス上にソフトウェアをインストールし、使用することができます。このソフトウェアは、仕事場、自宅、学校の自らのデバイスのほか、顧客の事務所のデバイスや第三者がホスティングする専用のハードウェアにもインストールし、ここで使用することができます。ほとんどのサブスクリャイバーのソフトウェアは、Microsoft Azure VM でも実行することができます。ただし、ソフトウェアは別途、運用環境で使用するためにライセンス許諾されることはありません。

運用環境は、アプリケーションのエンドユーザーがアクセスする環境 (インターネット Web サイトなど)、およびかかるアプリケーションの承認テストまたはフィードバック以外で使用される環境であると定義されています。運用環境を構成するシナリオの例を以下に挙げます。

- 運用環境のデータベースに接続する環境。
- 運用環境について、災害復旧またはバックアップをサポートする環境。
- 作業のピーク時に輪番で運用するサーバーなど、少なくともいずれかの時点で運用のために使用される環境。

事例: Visual Studio サブスクリプションを有するある開発者は、日中に仕事でサブスクリャイバーソフトウェアを使用しますが、別のコンピュータを使用して自宅で開発を行う必要があることもあります。Visual Studio のサブスクリプションライセンスでは、仕事場の PC と自宅の PC の間に違いはありません。自宅の PC は、開発者がサブスクリャイバーソフトウェアを使用することができる別のデバイスということになります。

ただし、開発者の自宅 PC で実行されているサブスクリバード ソフトウェアに課される制限は、仕事環境の制限と同じです。自宅 PC にインストールされたサブスクリバード ソフトウェアは、設計、開発およびテストの目的に限り使用することができます。また他のユーザーは、適切な Visual Studio サブスクリプションを有する場合のみ、ソフトウェアを使用することができます。

Visual Studio サブスクリバード向けの追加の使用権および特典

Office Professional Plus 2019 および Office 365 ProPlus

Office Professional Plus 2019 および Office 365 ProPlus は、Visual Studio Enterprise サブスクリプションまたは Visual Studio Enterprise のライセンスを取得したユーザーが、運用環境での使用のために 1 つのデバイス上で 1 年間、使用することができます。

Visual Studio Azure DevOps Server の運用環境での使用

Visual Studio Enterprise サブスクリプション、Visual Studio Professional サブスクリプション、Visual Studio Test Professional サブスクリプション、MSDN Platforms、およびすべての Visual Studio クラウド サブスクリプションには、サーバー ライセンスおよび Visual Studio Azure DevOps Server 2019 用の 1 つのクライアント アクセス ライセンスが含まれます。詳細については、本書の以下の [Visual Studio Azure DevOps Server 2019 ライセンス](#) のセクションに記載されています。

Visual Studio サブスクリバード向けの月間 Microsoft Azure クレジット

Visual Studio Enterprise サブスクリプション、Visual Studio Enterprise – 年間、MSDN Platforms、Visual Studio Test Professional サブスクリプション、Visual Studio Professional サブスクリプション、および Visual Studio Professional – 年間サブスクリプションには、Microsoft Azure サービスで使用するための月間クレジットが含まれます。可用性は様々で、対象となるサービスの量は、変更される場合があります。詳細については、<http://www.windowsazure.com/en-us/pricing/member-offers/msdn-benefits/> をご覧ください。これらのサービスを使用するには、Visual Studio サブスクリバードは、[Microsoft Azure 契約](#) にサインアップし、これを承認する必要があります。Visual Studio サブスクリバードは、運用アプリケーションを実行することはできません。この特典の使用はすべて、開発およびテストに限定されています。また、複数の Visual Studio サブスクリプションの毎月の Azure クレジットは、単一のアカウントに合算することはできません。

Visual Studio サブスクリバード向け Azure DevOps の特典

サブスクリプションをアクティブ化したすべての Visual Studio サブスクリバード (標準およびクラウド) は、追加料金を支払うことなく、[Azure DevOps](#) アカウントを作成するまたはこれに参加することができます。さらに、Visual Studio サブスクリバードは、追加料金を支払うことなく、以下の追加の拡張機能を利用することができます。

Team Services の拡張	この Visual Studio サブスクリプションに含まれるもの:
Azure Test Plan	<ul style="list-style-type: none">Visual Studio Enterprise (Visual Studio Enterprise サブスクリプション、Visual Studio Enterprise – 年間、または Visual Studio Enterprise – 月間)Visual Studio Test Professional サブスクリプションMSDN Platforms

Package Management

- Visual Studio Enterprise (Visual Studio Enterprise サブスクリプション、Visual Studio Enterprise – 年間、または Visual Studio Enterprise – 月間)

クラウド使用権: Microsoft Azure VM でのサブスクリイバー ソフトウェアの実行

サブスクリプションをアクティブ化した Visual Studio サブスクリイバーは、Microsoft Azure 上で仮想マシン内の大半のサブスクリイバー ソフトウェアを実行することができます。

これらのクラウド使用権も、お客様のソフトウェアの設計、開発、テスト、およびデモンストレーションに限定されます。

クラウド使用権は、Visual Studio およびユーザーの Visual Studio サブスクリプションに含まれるその他のすべてのソフトウェアに適用されます。また、開発およびテスト用に Azure VM にアクセスするには、リモート デスクトップ サービス (RDS) クライアント アクセス ライセンスは必要ではありません。

[Visual Studio サブスクリプションのアクティベート](#)とは、ライセンスを取得したユーザーの Microsoft アカウントまたは職場もしくは学校アカウントのログインと、Visual Studio サブスクリプションを関連付けることを意味します。サブスクリイバー ダウンロード、月間 Azure クレジットなど、サブスクリイバーの特典へのアクセスを得るためには、アクティベーションが必要です。

Visual Studio サブスクリイバーは、Windows Server または Windows クライアント VM をそれらが提供される場所で実行することができますが、Windows Server および Windows クライアントは、Visual Studio サブスクリイバーのクラウド使用権の一部として含まれていないため、これらの仮想マシンの実行に関する料金を支払う必要があります。Windows Server VM は、Azure および他の多くのプロバイダーを介して利用することができます。Windows クライアント VM は、Azure 上の有効な Visual Studio サブスクリイバー (すべての標準サブスクリプション、およびクラウド サブスクリプション) のみが、[Visual Studio サブスクリイバー向けの月間 Azure クレジット](#)、または [Dev/Test 従量課金オファー](#)もしくは [Enterprise Dev/Test オファー](#)を用いたチームの Azure サブスクリプション セットアップを通じてのみ利用することができます。

事例 1: 5 名の開発者で構成されるあるチームは、異なる Visual Studio サブスクリプション レベルのライセンス を取得しています。すなわち、3 名が Visual Studio Enterprise サブスクリプションを有し、他の 2 名が Visual Studio Professional サブスクリプションを有しています。Visual Studio Enterprise サブスクリプションを有する 1 名のチーム メンバーは、チームの開発環境として、Dev/Test 従量課金オファーを使用して、Microsoft Azure サブスクリプションをセットアップします。このチーム メンバーは、Visual Studio Enterprise サブスクリプションを用いてチームの各メンバーが開発およびテストのために使用する Microsoft SharePoint Server に仮想マシンを導入しています。Visual Studio Professional サブスクリプションを有する他の 2 名のチーム メンバーは、そのサブスクリプション レベルでは、SharePoint Server を使用する権利は付与されないため、この仮想マシンを使用することはできません。

事例 2: Visual Studio Professional サブスクリプションのライセンスを取得している開発者は、データベース アプリケーション向けに新たなストア プロシージャを開発するため、Microsoft Azure で実行されている仮想マシンに SQL Server をすでに導入しています。作業の実施中に、Visual Studio サブスクリプションの有効期限が切れました。サブスクリプションの期限が切れたことから、クラウド使用権も失効するため、開発者は、この仮想マシン内の SQL Server の使用を中止する必要があります。

事例 3: Visual Studio Enterprise サブスクリプションのライセンスを取得しているある開発者は、データベース アプリケーション向けに新たなストア プロシージャを開発するため、Azure で実行されている仮想マシンに Visual Studio および SQL Server をすでに導入しています。コードを書くためにこの Azure VM 内の Visual Studio を使用することは、クラウド使用権の一部として認め

られています。開発者は、RDS CAL を購入する必要なく、この仮想マシンにアクセスできます。開発者はまた、電子メールにアクセスするため、また他の開発者と連絡を取るため、仮想マシンに Office および Lync をインストールすることを希望しています。仮想マシン内で Outlook を使用して電子メールにアクセスする、または Lync を使用して他のユーザーとやり取りすることは認められていません。これは、運用環境での使用であり、またソフトウェアの設計、開発、テストまたはデモンストレーションに限定された Visual Studio サブスクリプションの使用権の範囲外であるためです。

クラウド使用権: 専用ホスト型クラウド サービスでのサブスクリイバー ソフトウェアの実行

Visual Studio サブスクリイバー ソフトウェアは、2019 年 10 月 1 日付で、以下の公共クラウド プロバイダーが提供する専用ホスト型クラウド サービス上で実行することはできなくなります。

Alibaba、Amazon (AWS 上の VMware Cloud を含みます)、および Google

この変更は、2019 年 10 月 1 日より前に購入したライセンスに基づく既存のソフトウェア バージョンの使用に影響を与えることなく、2019 年 10 月 1 日以降に購入したライセンスに適用されます。Visual Studio サブスクリプションの期間中、Azure (マルチテナントまたは専用ホスト) での使用は、引き続き認められます。

詳細については、以下のライセンス ニュース記事 (<https://www.microsoft.com/en-us/licensing/news/updated-licensing-rights-for-dedicated-cloud>) を参照してください。

Lab Management

Visual Studio Enterprise サブスクリプション、Visual Studio Enterprise – 年間、MSDN Platforms および Visual Studio Test Professional サブスクリプションのサブスクリイバーは、Microsoft Azure Test Plan を用いて、ラボ環境を構築、導入および管理する目的で、System Center – Virtual Machine Manager (SCVMM) をインストールおよび実行することができます。ラボ環境とは、プログラムの開発およびテストのみを目的として使用される仮想オペレーティング システム環境のことです。仮想化された運用サーバーの管理など、SCVMM のその他すべての運用環境での使用は、別個の管理ライセンスを必要とします。Test Controller 2012 を含む、Visual Studio Agents 2012 ソフトウェアも、このシナリオで使用されるかかるサブスクリプション レベルに含まれます。SCVMM および Azure DevOps Server は、別の SQL Server ライセンスを購入する必要なく、同じ SQL Server データベースを共有することができます。

ロード テスト

Visual Studio Enterprise サブスクリプション、Visual Studio Enterprise – 年間、および Visual Studio Enterprise - 月間のサブスクリイバーは、仮想ユーザーの人数の制限なく、ロード テスト (運用環境で実行されるロード テストを含みます) を実行するために、ソフトウェアを使用することができます。

SQL Server Parallel Data Warehouse Developer

Visual Studio Enterprise サブスクリプション、Visual Studio Enterprise – 年間、Visual Studio Professional サブスクリプション、および Visual Studio Test Professional サブスクリプションには、SQL Server Parallel Warehouse Developer のライセンスが含まれます。このソフトウェアを実行するために必要な Parallel Data Warehouse アプライアンスは、OEM 経由で販売されます。

IntelliTrace

IntelliTrace では、デバッグの促進のためにアプリケーション実行の記録およびプレイバックが可能です。これは、IntelliTrace.exe というコマンド ライン ユーティリティを導入する、または Microsoft Azure Test Plan を使用したテストを実行することで、Visual Studio Test Agent の一環としてターゲット システムに IntelliTrace 診断データ アダプター (DDA) を導入することで達成されます。Microsoft Azure Test Plan は、Visual Studio Test Professional および Visual Studio Enterprise ソフトウェア インストールの一部として含まれます。

IntelliTrace ファイル — IntelliTrace DDA または IntelliTrace.exe の実行によるアウトプット — は、Visual Studio Enterprise を用いてのみ開き、デバッグを行うことができます。IntelliTrace ファイルは、2 社以上の会社の間で共有することができません。たとえば、ある会社は、IntelliTrace ファイルを外部開発コンサルタントと共有することができます。同様に、ある会社は、テストの目的で外部会社を起用し、ベンダーから提供された IntelliTrace ファイルについて、デバッグすることができます。

事例 1: テスト環境での不具合の検出

会社 A は、Web アプリケーションを構築しています。すべての開発者は、Visual Studio Enterprise サブスクリプションのライセンスを取得しており、テスターは、Visual Studio Test Professional サブスクリプションのライセンスを取得しています。テスト実行中に、開発環境では再現することが困難なテスト環境で不具合が発見されました。テスト マシンには、すでに、IntelliTrace DDA を含む、Visual Studio Test Agent が設定されています。テスターは、Microsoft Azure Test Plan (Visual Studio Test Professional および Visual Studio Enterprise の機能) を使用して、IntelliTrace 診断データ アダプター (DDA) を有効にすることでテスト ケースを実行します。不具合が発生した場合、テスターは、新しいバグをファイルし、各テスト マシンの IntelliTrace ファイルは、バグに自動的に添付されます。開発者が Visual Studio Enterprise を用いてバグを開く場合、開発者は、IntelliTrace ファイルを開き、問題のデバッグを行うためにこれを使用することができます。

事例 2: 外部コンサルタントとの協力

事例 1 では、会社 A は、開発支援のために外部コンサルタントを使用しています。外部コンサルタントが Visual Studio Enterprise のライセンスを取得している場合は、会社 A が提供する IntelliTrace ファイルを開いてデバッグすることができます。

含まれるソフトウェアが独自の条件の対象となる場合

プレリリースおよび試用版ソフトウェア

Visual Studio サブスクリプションには、マイクロソフト ソフトウェア製品のプレリリースおよび試用版へのアクセスが含まれます。ソフトウェアがユーザーの Visual Studio サブスクリプションの一部として利用できる場合は、任意の数のデバイス上でインストールおよび使用することができます。

ただし、サブスクライバー ダウンロードを通じて提供されるプレリリースおよび試用版のソフトウェアは、製品内のライセンス条項の対象となります。

SDK、DDK、Feature Pack、およびパターンとプラクティスのリリース

Visual Studio サブスクリプションには、ソフトウェア開発キット (SDK)、ドライバー開発キット (DDK)、Visual Studio Feature Pack、およびパターンとプラクティスのリリースへのアクセスが含まれます。これらは、製品内ライセンス条項の対象となります。

Windows Embedded

Windows Embedded 製品には、特定の製品の使用許諾契約 (EULA) に準拠する追加のソフトウェア ライセンス条項が定められています。Windows Embedded ソフトウェアは、業務を実行するため、または営利目的で (Windows Embedded ソフトウェアをライセンス許諾、リースもしくは販売すること、評価目的でいずれかの製品に組み込んでこれを顧客に頒布すること、または商品に使用するためにこれを頒布することなど) Windows Embedded ソフトウェアを頒布するために使用することはできません。営利目的で Windows Embedded ソフトウェアを配布するためには、[追加のステップ](#)が必要です。Microsoft Embedded 認定ディストリビューターは、ライセンス許諾、認証および出荷の要件について、サブスクリイバーを導くことができます。

IntelliTrace Collector および Microsoft Management Agent

IntelliTrace Collector (Visual Studio 2012 製品ラインで提供) および Microsoft Management Agent (Visual Studio 2019 製品ラインから提供開始) は、無料でダウンロードできます。IntelliTrace Collector および Microsoft Management Agent は、アプリケーションの問題をデバッグするために使用できる履歴ログを収集するため、任意の数のマシン (運用環境内のマシンを含みます) 上でインストールすることができます。IntelliTrace Collector および Microsoft Management Agent の使用は、製品内のライセンス条項の対象となりますが、IntelliTrace アウトプットは、Visual Studio Enterprise サブスクリプション、Visual Studio Enterprise – 年間、および Visual Studio Enterprise - 月間のサブスクリイバーのみが読み取ることができます。

Remote Tools

リモート デバッガーとして知られていた [Visual Studio Remote Tools](#) は、提供される製品内ライセンス条項の対象となります。リモート ツールは、アプリケーションをリアルタイムでデバッグするために運用環境で使用できます。

ライセンスを取得していないユーザーがソフトウェアを使用できるシナリオ

ターミナル サービスを使用したデモンストレーション

すべての Visual Studio サブスクリプション (月間クラウド サブスクリプションを除く) には、200 名まで同時に匿名ユーザーがお客様のプログラムのオンライン デモンストレーションにアクセスすることができる、Windows Server Remote Desktop Services の使用が含まれます。これらの匿名ユーザーには、Visual Studio サブスクリプションは必要ありません。それにもかかわらず、Visual Studio サブスクリイバーは、サブスクリプションに含まれる他のソフトウェアと同様に、開発およびテスト用にリモート デスクトップ サービスを使用することができます。

受け入れテスト

ソフトウェア開発プロジェクトの終了時に、**エンド ユーザー** (または特にプログラムの実際のエンド ユーザーが参加することが不可能である場合には、エンド ユーザーの代理として行為するビジネス スポンサーもしくは製品管理者などのチーム メンバー) は通常、アプリケーションのレビューを行い、リリースのために必要な基準を満たしているかどうかを判断します。このプロセスは、多くの場合、ユーザー受け入れテストまたは UAT と呼ばれます。このソフトウェアには、受け入れテストの目的で Visual Studio サブスクリプションを有していないエンド ユーザーがアクセスすることができます。ただし、ソフトウェアの使用がその他の点で、すべての Visual Studio サブスクリプション ライセンス条項を遵守していることを条件とします。主な役割が、ソフトウェアの設計、開発またはテストである人が「エンド ユーザー」とみなされることはまれです。

受け入れテストは、ライブの運用データを使用してはなりません。ライブの運用データの **コピー** が使用される場合、かかるデータのコピーは、テストが完了した後破棄する必要があるため、ライブの運用データに再度組み込むことはできません。

フィードバック

エンド ユーザーは、無料で [Feedback Client for TFS](#) をダウンロードすることができ、お客様のアプリケーションのレビューを行うためにソフトウェアにアクセスし、フィードバックを提供することができます。エンド ユーザーがソフトウェアにアクセスして、フィードバックを提供するために、Visual Studio サブスクリプションは必要ありません。エンド ユーザーは、アプリケーションをテストしていないため、Visual Studio サブスクリプションが必要になります。

特定のソフトウェアをお客様のアプリケーション内で他者に頒布できる方法

Microsoft.NET Framework などの一部のソフトウェアは頒布することができます。

ロイヤルティなしに (アプリケーション内でまたは別個のファイルとして) 頒布することができる Visual Studio サブスクリプションに含まれるソフトウェア製品のコンポーネントは、製品に関連付けられた REDIST.TXT ファイルで特定されています。

マイクロソフト以外のプラットフォームに頒布できるコンポーネントは、製品に関連付けられている OTHER-DIST.TXT ファイルで特定されています。頒布可能であると特定されたコードのうち、拡張子 .lib を有するものは、直接頒布することはできません。これは、アプリケーションにリンクさせる必要があります。ただし、その結果生じたアウトプットを頒布することはできます。

お客様は、以下を行うこともできます。

- 「sample」または「Code Snippet」の表示のあるコードのソース コードおよびオブジェクト コードを改変および頒布すること。
- アプリケーションの.msi ファイルで使用するために Microsoft Merge Modules の未変更のアウトプットを頒布すること。
- コア データ アクセス コンポーネント (Microsoft SQL Server OLE DB プロバイダーおよび ODBC ドライバーなど) を含む MDAC_TYP.EXE ファイルを頒布すること。
- C++ ライブラリ (Microsoft Foundation Classes、Active Template Libraries、および C ランタイム) のオブジェクト バージョンを頒布すること

頒布可能なコンポーネントの完全リストおよび適用される制限事項については、[Microsoft 製品使用権説明書 \(PUR\)](#) の共通の使用条件のセクションまたは小売 Visual Studio サブスクリプションに関する [マイクロソフト使用許諾契約書 \(EULA\)](#) の頒布可能なコードのセクションに記載の頒布可能コードを参照してください。

その他のガイダンス

「開発者デスクトップ」上の Windows が別個のライセンスを必要とする場合

大半の場合、メイン PC (または一連の PC) で使用される Windows は、用途の組み合わせ (プログラムの設計、開発、テストおよびデモンストレーション (Visual Studio サブスクリプション ライセンスに基づき許可される用途) とその他の用途) により Visual Studio サブスクリプションとは別のライセンスを取得する必要があります。電子メールのやり取り、ゲーム プレイ、または文書の編集など、その他の方法でソフトウェアを使用する場合は、別の用途となり、Visual Studio サブスクリプション ライセンスでは使用は認められません。用途の組み合わせがある場合、基盤となるオペレーティング システムは、通常は、新たな OEM PC に同梱されるものなど、Windows の通常のコピーを購入することで、ライセンスを取得する必要があります。

事例: Visual Studio Enterprise サブスクリプションを有する開発者は、別個のハードウェアを使用した PC を構築しており、これをアプリケーションの開発およびテストの目的で使用することを意図しています。開発者は、通常の運用環境でプロジェクト タイムラインを管理するために使用するため、マシン上に Project Professional 2013 (別途ライセンス許諾されるもの) のコピーをインストールしています。プロジェクトは運用環境で使用されているため、PC は、様々な用途で使用されており、プロジェクトが実行され

る Windows オペレーティング システムについても、通常の運用ライセンスを有している必要があります。開発者は、Visual Studio サブスクリプションを通じてこの PC で Windows を使用するには、ライセンスを取得することはありません。

仮想環境において別個のライセンスを必要とする場合

1 つ以上の仮想マシンを実行している物理マシンが開発およびテスト専用で使用されている場合、物理ホスト システムで使用されるオペレーティング システムは、サブスクリイバー ソフトウェアである場合があります。ただし、当該物理システムにホストされている物理マシンまたはいずれかの仮想マシンが他の目的で使用されている場合は、運用環境の仮想マシン内のオペレーティング システムと物理ホスト用のオペレーティング システムの両方について別々にライセンスを取得する必要があります。システムで使用されている他のソフトウェアについても同様です。たとえば、サブスクリイバー ソフトウェアとして入手した Microsoft SQL Server は、プログラムの設計、開発、テストおよびデモンストレーションにのみ使用することができます。

開発およびテスト環境の監視および管理に必要とされる管理ライセンス

多くの場合、Microsoft System Center は、開発またはテスト環境で実行されるマシンを監視または管理するために使用されます。これは、System Center の通常の用途であり、別個に取得される、通常の System Center 管理ライセンスが必要になります。この用途 (マシンの監視および管理) は、Visual Studio サブスクリプションでは認められません。こうした開発およびテスト用のマシンに System Center エージェントをインストールする場合、ライセンスを取得した Visual Studio サブスクリイバーがこれを行う必要があります (オペレーティング システムなどの、ソフトウェアの使用にはライセンスが必要であるため)。ただし、System Center のオペレーターは、Visual Studio サブスクリプションなしに、これらのマシンをリモートで監視することができます。

また、System Center を含む Visual Studio サブスクリプションについては、サブスクリイバーは、そのプログラムの設計、開発、テストおよびデモンストレーションのために System Center ソフトウェアを使用することができます。

事例 1: ある会社は、その運用データセンターで実行するサーバーと開発およびテスト ラボで実行するサーバーの両方を管理するため、System Center - Operations Manager を使用しています。各自が Visual Studio サブスクリプションを有している開発およびテスト チームのメンバーは、すべてのソフトウェア インストール (System Center エージェント ソフトウェアのインストールを含みます) を開発およびテスト ラボで行う必要があります。この環境で実行するソフトウェアはユーザーごとにライセンスが許諾されており、かかる個人のみがこの使用を可能にする Visual Studio サブスクリプションを有しているためです。インストール後、Visual Studio サブスクリプションを有していない通常の System Center のオペレーターも、System Center ソフトウェアを用いて、リモートでこれらのサーバーを監視および管理できるようになります。

事例 2: ある ISV は、System Center で公開された API を通じて Microsoft System Center - Operations Manager に問い合わせ、その後カスタマイズされたレポートを作成するアプリケーションを作成しています。これは、開発であるため、サブスクリプションに System Center ソフトウェアが含まれている、Visual Studio Enterprise サブスクリプション または Visual Studio Enterprise - 年間のサブスクリイバーに許可されています。

永続的使用権

特定のチャンネルを通じて購入された Visual Studio サブスクリプションにより、サブスクリイバーがサブスクリプションの有効期限が切れた後に有効なサブスクリプションを通じて取得した特定のソフトウェア製品を引き続き使用することができる永続的な使用権

が付与されます。ただし、サブスクリイバーは、サブスクリプションの有効期限が切れた後は、かかるソフトウェアを更新することはできず、サブスクリイバー ダウンロードを通じたソフトウェアもしくはプロダクト キーへのアクセス、または有効なサブスクリプションを有する特典として得た他のサブスクリプション サービスへのアクセス権を引き続き保持することはできません。サブスクリプションが有効である間に取得したプロダクト キーは、かかるキーのすべてのアクティベーションが使用尽くされるまで、引き続き使用することができます。Visual Studio サブスクリプションが移転または売却される場合、永続的な使用権は、新たな当事者に移転され、売主は、ソフトウェアを使用することはできなくなります。

一般的に、永続的な使用権を付与されない Visual Studio サブスクリプションには、以下が含まれます。

- Visual Studio クラウド サブスクリプション
- エンタープライズ契約サブスクリプション、オープン バリュー サブスクリプション、キャンパス基本契約、またはその他の「サブスクリプション」ボリューム ライセンス プログラムを通じて購入された Visual Studio サブスクリプション
- Microsoft Partner Network を通じてコンピテンシー パートナーおよび Microsoft Action Pack パートナーに対して提供される Visual Studio サブスクリプション

上記の事例では、サブスクリイバーは、Visual Studio サブスクリプションを通じて提供されたいかなるソフトウェアも、その有効期間が切れた後は、使用することはできません。

ライセンスの再割当

Visual Studio サブスクリプションまたは Visual Studio Professional のスタンドアロン ライセンスは、ユーザーがチームを離れる場合など、別のユーザーに再割当することができます。ただし、小売およびボリューム ライセンス チャンネルを通じた購入については、最後の割当から 90 日以内に行うことはできません。

インストール画像の一部としてのソフトウェアの頒布

物理マシンまたは仮想マシンの画像は、クライアントまたはサーバー マシンをセットアップするための迅速かつ便利な方法となります。ただし、ソフトウェアが画像を作成するために使用される場合で、ソフトウェアのライセンスが許諾される Visual Studio サブスクリプションが小売チャンネルを通じて購入された場合、これらのインストール画像は、他者に頒布することはできません。この制限は、画像をインストールおよび/または使用する対象ユーザーがインストール画像に含まれるソフトウェアにつき適切な Visual Studio サブスクリプションを有している場合にも同様に適用されます。これらのユーザーは、当然のことながら、サブスクリイバーダウンロードから直接ソフトウェアをダウンロードし、独自のインストール画像を作成することができます。

ボリューム ライセンス プログラムを通じてある組織が Visual Studio サブスクリプションを取得した場合、インストール画像は、同じ組織内の適切な Visual Studio サブスクリプション レベルについてのみライセンスを取得したユーザー（かかる組織のために業務を行い、かかる組織の利用可能なライセンスから一時的に Visual Studio サブスクリプションの割当を受けた外部契約者を含みます）の間で頒布することができます。ソフトウェアの第三者への再頒布は、物理マシンおよび仮想マシンの画像、DVD および ISO ファイルを含め、いかなる形であれ認められません。

事例: 会社 A は、テスト サーバー 環境でマシンをインストールするために画像作成に関与する業務の一部を会社 B に外注しています。会社 B に所属する個人は、会社 A に所属する個人に マイクロソフト ソフトウェアを頒布することはできないため、会社 B がこれにより作成した画像を会社 A に「頒布」するためのオプションは、以下のとおりです。

- 会社 A が、画像を作成することになる会社 B に所属する個人に、スペア (未割当) の Visual Studio サブスクリプションを割り当てます。これにより、ソフトウェアは同じ組織内で移転することができます (よって、マイクロソフトのソフトウェアを第三者に頒布することにはなりません)。または

- 会社 B が、画像を構築するための指示を会社 A に提供し、会社 A がその後、内部で画像を構築します。

外部事業者 (ソリューション プロバイダー、独立した契約者、海外の開発センターなど) に対する Visual Studio サブスクリプションの割当

ある組織がその開発チーム内で勤務する外部契約者を起用する場合、かかる契約者は、使用する予定のいかなるソフトウェアについても、適切な Visual Studio サブスクリプションを有している必要があります。顧客はまた、顧客がその開発およびテスト環境の全部または一部を別の地域の別の事業体に外注している状況において、開発およびテスト環境につき完全かつ正確にライセンスを取得するよう徹底する必要があります。顧客は、すべての外部事業者 (ソリューション プロバイダー、独立した契約者、海外の開発センターなど) に対する割当を追跡する必要があります。外部事業体に割り当てられたすべてのサブスクリプションの使用状況を報告するよう求められる場合があるためです。

事例: ある外部契約者が、クライアント組織の開発チーム内で一時的に作業する予定です。クライアントの開発チームの各メンバーは、Visual Studio Enterprise サブスクリプションを有しています。かかる契約者が Visual Studio Enterprise サブスクリプションも有している場合、既存のチーム メンバーと同様に、契約者は、開発環境でソフトウェアを使用することができます。契約者が Visual Studio サブスクリプションを有していない場合、または Visual Studio サブスクリプションを有しているが、使用する予定のすべてのソフトウェアを対象としていない低いレベルのものである場合、以下のいずれかとします。

- 契約者は、適切な (高いレベルの) Visual Studio サブスクリプションを取得する必要があります。
- 組織は、(使用するために必要なソフトウェアを含む十分なレベルの) スペア (未割当) の Visual Studio サブスクリプションのいずれかを、契約期間中、契約者に割り当てる必要があります。

さらに、契約者がクライアントの Azure DevOps Server を使用している場合、クライアントは、契約者が使用するために、Azure DevOps Server CAL を提供する必要があります。これは、別途購入される CAL またはクライアントが一時的に契約者に割り当てる、Visual Studio サブスクリプションに含まれる CAL とすることができます。Azure DevOps Server CAL は、同じ組織が取得する Azure DevOps Server にアクセスするためにのみ有効です。

Microsoft Partner Network (MPN) を介した Visual Studio サブスクリプション

Microsoft Partner Network を通じて提供される Visual Studio サブスクリプションは、コンサルティング サービスの提供、特定の顧客向けのパッケージ化アプリケーションのカスタマイズ、または顧客向けのカスタム アプリケーションの構築など、直接的な収益が発生する活動のために、有料で使用することはできません。

事例: ある外部契約者は、クライアント組織の開発チーム内で一時的に作業する予定です。この契約者は、その企業が Microsoft Partner Network (MPN) に参加する特典として、Visual Studio Enterprise サブスクリプションを有しています。MPN の特典として取得した Visual Studio サブスクリプションは、コンサルティング サービスには使用できないため、以下のとおりとなります。

- 契約者は、この用途のため Visual Studio サブスクリプションを購入する必要があります。
- 組織は、(使用する必要のあるソフトウェアを対象とする十分なレベルの) 購入した スペア (未割当) の Visual Studio サブスクリプションのいずれかを、契約期間中、契約者に割り当てる必要があります。

プロダクト キーおよびインストール ソフトウェア

Visual Studio サブスクリバラーは、インストール ソフトウェアについては、かかるソフトウェアを認定ソース (サブスクリバラー ダウンロード、ボリューム ライセンス サービス センター、または公式のマイクロソフト DVD など) から取得している限り、またソフトウェア製品がユーザーの Visual Studio サブスクリプションの対象である限り、使用することができます。たとえば、Visual Studio サブスクリバラーは、テスト ラボで Windows をインストールするために、組織のボリューム ライセンス メディアを使用することを選択することができます。これにより、ボリューム ライセンス プロダクト キーが、サブスクリバラー ダウンロードを通じて入手可能なキーよりも、アクティベーションの制限が高くなるため、より便利になります。

サブスクリバラー ダウンロードから取得したが、運用ライセンスに基づきライセンスを取得したソフトウェアの使用

多くの場合、完全にテスト済みのアプリケーションを実行するサーバーを運用環境に直接導入する方が便利です。Visual Studio サブスクリプション ライセンスは、ユーザーごとに許諾され、一般的に開発およびテストに制限されているため、この用途で通常のライセンス (Windows Server ライセンスおよびクライアント アクセス ライセンスなど) を取得する必要があります。ただし、このソフトウェアをアクティブ化するために使用されるインストール済みソフトウェアおよびプロダクト キーは、該当する場合は、サブスクリバラー ダウンロードから入手することができます。このことは、運用環境でかかるソフトウェアを使用するライセンスを、Visual Studio サブスクリプションから別途取得する必要がある場合も同様とします。

ソフトウェアのアクティベーション

サブスクリバラー ダウンロードを介して提供される多くのソフトウェア製品は、アクティベーションが必要です。これは、マイクロソフトのサーバーにオンラインで接続することで、インストールするソフトウェアが正規の Microsoft ソフトウェアであること (不正コピーではないこと) を検証するプロセスです。プロダクト キーが入力され、プロダクトのインストールのために検証されたのち、アクティベーションが行われます。アクティベーションとライセンスを混同しないように留意してください。アクティベーションは、お客様が製品 (Visual Studio サブスクリプションを介して提供される Windows 8 など) を使用するライセンスを取得しているか否か、またはお客様がライセンスに基づき許可される方法 (アプリケーションの開発のために Windows 8 を使用するなど) でソフトウェアを使用しているか否かを判断する方法ではありません。詳細については、[プロダクト キーおよびライセンス認証](#) を参照してください。

Visual Studio Azure DevOps Server 2019 ライセンス

Microsoft Visual Studio Azure DevOps Server 2019 は、マイクロソフトのアプリケーション ライフサイクル管理 (ALM) ソリューションのバックボーンであり、バージョン コントロール、作業項目の追跡、報告および自動ビルドなど、重要なサービスを提供します。

Visual Studio 2019 開発ツールに深く統合されることで、Azure DevOps Server は、組織がソフトウェアの設計、構築、テストおよび導入の過程で、また最終的に生産性とチーム アウトプットの向上、品質向上、およびアプリケーションのライフサイクルの視認性の向上につなげるため、より効果的に通信および協力を行えるようになります。

マイクロソフトは、サーバー/クライアント アクセス ライセンス (CAL) ライセンス モデルに基づき (つまり、組織は、Azure DevOps Server (すなわち、サーバー) の各実行インスタンスにつき、Azure DevOps Server のライセンスを有する必要があります)、また特定の例外があるものの、Azure DevOps Server にアクセスする各ユーザーまたはデバイスにつき、Azure DevOps Server 2019 CAL に基づいて、Azure DevOps Server のライセンスを許諾します。

Visual Studio Azure DevOps Server 2019 の取得

Visual Studio Azure DevOps Server 2019 は、次の 3 つの方法で取得することができます。

- **Visual Studio サブスクリプション。** Visual Studio Enterprise サブスクリプション、Visual Studio Professional サブスクリプション、Visual Studio Test Professional サブスクリプション、MSDN Platforms、およびすべての Visual Studio クラウド サブスクリイバーは、Azure DevOps Server 2019 の単一のインスタンスをダウンロードし、導入することができます。これらの同じ Visual Studio サブスクリイバーは、組織内で使用される Azure DevOps Server 2019 ユーザー CAL を付与されます (別の組織が取得した Azure DevOps Server の使用には無効です)。
- **ボリューム ライセンス。** Azure DevOps Server は、上記 [購入方法](#) のセクションに定めるとおり、マイクロソフト ボリューム ライセンス プログラムを通じて提供されます。

事例: ある組織は、Azure DevOps Server 2019 に関して 2 つの小売サーバー ライセンスを購入しました。Azure DevOps Server の単一インスタンスへのアクセスを必要とする人が 10 名おり (他のサーバー ライセンスは現在使用されていません)、そのうちの誰も Visual Studio サブスクリプションを有していません。Azure DevOps Server の単一インスタンスにアクセスする人は、5 名までは CAL を必要としないため、組織は、他の 5 名についてのみ CAL を購入する必要があります。

あるいは、組織が Azure DevOps Server 2019 の両方のインスタンスをインストールしている場合、組織は、5 名に一方のインスタンスを使用させ、他の 5 名にもう一方のインスタンスを使用させることができます。この場合、組織は、CAL を購入する必要はありません。

本書の本セクションでは Azure DevOps Server 2019 のライセンスに焦点を当てていますが、この条項は、無料の Azure DevOps Server 2019 Express にも関係しています。ただし、Azure DevOps Server 2019 Express に記載されている場合およびここに含まれていない特徴を除きます。

Azure DevOps Server をライセンス許諾するための一般的なガイダンス

Azure DevOps Server のライセンス許諾を計画している場合に理解しておくべきポイントがいくつかあります。

- **取得する Azure DevOps Server 2019 の各サーバー ライセンスについて、お客様は、いずれか 1 つのサーバーに当該ライセンスを割り当てる必要があります。** お客様は、ライセンスを取得したサーバー上の 1 つの物理または仮想オペレーティング システム環境 (OSE) で、サーバー ソフトウェアのインスタンスを 1 つ実行することができます。
- Azure DevOps Server ライセンスには、任意の数のマシン (物理または仮想) で実行可能な特定の追加ソフトウェアも含まれます。追加ソフトウェアには、以下が含まれます。
- Team Foundation Build Services (ビルド サーバーを実行するため)
- Team Explorer (Azure DevOps Server に接続するために Visual Studio と共にインストールするため)
- **お客様は、Azure DevOps Server 2019、いずれかの追加ソフトウェア、または Azure DevOps Server 向けの SQL Server データベースを実行する各マシンにつき、オペレーティング システム ライセンスを取得する必要があります。** お客様は、Azure DevOps Server の使用が Visual Studio サブスクリプションの一部としてライセンス許諾される場合でも、オペレーティング システムのライセンスを取得する必要があります。Windows Server が Server/CAL ベースでライセンス許

諾される、Windows Server ベースの導入について、(読み書きベースで) Azure DevOps Server データにアクセスする各ユーザーまたはデバイスは、Windows Server CAL も有している必要があります。

- Microsoft SQL Server 2019 Standard ソフトウェアの単一のインスタンスは、Azure DevOps Server 2019 データベースとして使用することができますが、SQL Server 2017 Express を使用する Azure DevOps Server 2019 Express を除きます。Azure DevOps Server 2019 は、データ レポジトリとして Microsoft SQL Server 使用しており、これにより、Azure DevOps Server 2019 サーバー ライセンスごとに、SQL Server 2019 Standard ソフトウェアの単一のインスタンスを導入する権利が付与されます。これは別個の SQL Server ライセンスではありません。SQL Server のこのインスタンスは、別のサーバーで実行することができますが、Azure DevOps Server によってのみ使用することができ、他の目的には使用できません。Azure DevOps Server 以外の目的で SQL Server ソフトウェアを使用する場合、お客様は、この使用につき別途ライセンスを取得する必要があります。
- **SQL Server Enterprise は、Azure DevOps Server 2019 に使用することができますが、別途ライセンスを取得する必要があります。**お客様が Azure DevOps Server 2019 データベースとして、SQL Server の異なるエディション (Enterprise など) を使用する場合は、そのライセンスを別途取得する必要があります。
- **SQL Server Reporting Services for Azure DevOps Server 2019 は、SQL Server CAL を取得することなく、Azure DevOps Server ライセンスに基づき提供される SQL Server ソフトウェアを使用して、アクセスすることができます。**通常、SQL Server Reporting Services にアクセスするには、別個の SQL Server CAL が必要になりますが、Azure DevOps Server 2019 ライセンスに基づく Azure DevOps Server 2019 レポートへのアクセスは、SQL Server CAL がなくとも認められます。ただし、実行する SQL Server ソフトウェアが Azure DevOps Server ライセンス (すなわち、SQL Server 2019 Standard) に基づき提供されるバージョンおよびエディションである限り、または別途コアごとにライセンス許諾される限りとします。すべての場合において、Azure DevOps Server レポートにのみアクセスするユーザーには、Azure DevOps Server CAL は必要ありません。

Azure DevOps Server に関するサーバーのライセンス要件

取得する各 Azure DevOps Server ライセンスについて、お客様は、1 つの物理または仮想オペレーティング システム環境でサーバー ソフトウェアのインスタンスを 1 つ実行することができます。ソフトウェアを実行する前に、お客様は、Azure DevOps Server ライセンスを自らのいずれか 1 つのサーバーに割り当てる必要があります。

サーバー ライセンスの再割当

Azure DevOps Server 2019 ライセンスは、別のサーバーに再割当することができますが、最後の割当から 90 日以内に行うことはできません。ただし、永続的なハードウェア障害が発生した場合は、これより早期に再割当を行うことができます。

ビルド サーバー上での Visual Studio の使用

Visual Studio Enterprise サブスクリプション、Visual Studio Professional サブスクリプション、または Visual Studio クラウド サブスクリプションについて、1 名以上のライセンスを取得したユーザーがいる場合、Azure DevOps Server 2019 Build Services の一環として、Visual Studio ソフトウェアをインストールすることもできます。このように、お客様は、ビルドを開始する行為を行う各人について、ビルド サーバー上で Visual Studio の実行を対象とするために、Visual Studio ライセンスを購入する必要はありません。

Azure DevOps Server に関するクライアント ライセンス要件

特定の例外があるものの、Azure DevOps Server に直接または間接的にアクセスする各ユーザーまたはデバイスは、ユーザー CAL またはデバイス CAL を有している必要があります。

クライアント アクセス ライセンスを必要としない場合

Azure DevOps Server CAL は、以下のシナリオでは必要ありません。

- 任意のインターフェイスを介して作業項目を入力し、作業項目を表示および編集する場合。
- **Azure DevOps Server レポートにアクセスする場合。** Azure DevOps Server SQL Data Warehouse から取得した、または SQL Server Analysis Services を通じて公開される読み取り専用のデータは、レポートとなりますが、Azure DevOps Server API に記録するためにカスタム レポートを作成すること、また かかるデータを他のデータ ソースに組み込むこともできます。
- **Microsoft System Center Operations Manager を用いた Azure DevOps Server へのアクセス。** これにより、オペレーション スタッフは、運用環境で発生した運用上の問題を取り上げ、問題として開発チームにこれを提起し、Azure DevOps Server で作業項目を自動的に作成することができます。
- **Feedback Client for TFS を用いた Azure DevOps Server へのアクセス。** これにより、ユーザーは、Azure DevOps Server のアプリケーションについて、[フィードバック](#)を提供することができます。
- Azure DevOps Server 外で手動で頒布された静的データの表示。
- Team Project または Project Collections を作成するなど、システム管理を実施するために、Azure DevOps Server へのみアクセスする最大 2 つのサーバーまたは 2 名のユーザー。
- Azure DevOps Server が小売チャネルを通じて購入される場合、または無料の Azure DevOps Server Express については、最大 5 名のユーザー。ただし、6 人目以降のユーザーには CAL が必要となります。
- **他の統合アプリケーションまたはサービスから、プールされた接続を介した Visual Studio Azure DevOps Server へのアクセス。** これにより、Azure DevOps Server と顧客のチケットリング ソリューションおよびその他の ALM ソリューションなど、LOB アプリケーションを統合することにより生じるライセンス上の衝突を排除することができます。
- **Azure DevOps Server 2019 Proxy を介した Team Foundation Service へのアクセス。** これにより、帯域幅の待ち時間の問題を有する Team Foundation Service のサブスクリバラーは、サービスにアクセスするために Azure DevOps Server 2019 Proxy を導入することができます。
- リリース管理パイプラインの一環として、ステージに承認を提供する。

ただし、すべての場合において、ユーザーは、Windows Server (Windows Server が Azure DevOps Server のオペレーティング システムとして使用され、Windows Server が Server/CAL に基づきライセンス許諾される場合)、SharePoint Server (ユーザーが SharePoint Server を実行する Azure DevOps Server Project Portal にアクセスする場合)、または SQL Server (Azure DevOps Server が SQL Server 2019 Standard 以外の SQL Server サーバーのバージョンまたはエディションを使用する場合) について、該当する場合は、必要な CAL を有している必要があります。

CAL 以上のものを必要とするサーバー機能

Azure DevOps Server 2019 のテスト管理またはパッケージ管理機能を使用する場合、特定のレベルの Visual Studio サブスクリプションまたは Visual Studio Marketplace を通じた購入が必要になります。CAL は、これらの機能を使用するのに十分ではありません。

機能	提供先:
テスト管理	<ul style="list-style-type: none">Visual Studio Enterprise サブスクリプション (Visual Studio Enterprise サブスクリプション、Visual Studio Enterprise – 年間、または Visual Studio Enterprise – 月間)Visual Studio Test Professional サブスクリプションのサブスクリイパーMSDN Platforms サブスクリイパー有料 Azure Test Plan ユーザー
パッケージ管理	<ul style="list-style-type: none">Visual Studio Enterprise サブスクリイパー (Visual Studio Enterprise サブスクリプション、Visual Studio Enterprise – 年間、または Visual Studio Enterprise – 月間)有料 Package Management ユーザー

所属する組織から提供された Visual Studio Enterprise サブスクリプション、Visual Studio Enterprise – 年間、Visual Studio Enterprise – 月間、MSDN Platforms、または Visual Studio Test Professional サブスクリプションを有する外部契約者は、他の組織で実行される Azure DevOps Servers においてこれらの機能にアクセスすることもできます。ただし、Azure DevOps サーバーのライセンスを取得した組織が購入する Azure DevOps Server CAL は、これらの各ユーザーに対して割り当てる必要があります。

ユーザー CAL かデバイス CAL の選択

組織は、ユーザー CAL もしくはデバイス CAL、またはその両方の組み合わせの購入を選択することができます。複数のデバイスまたはロケーションから 1 名のユーザーが Azure DevOps Server にアクセスする場合は、ユーザー CAL が適切であることがあります。デバイス CAL は、一般的に、Azure DevOps Server にアクセスするために複数の個人が 1 つのデバイスを共有する場合に使用されます。デバイス CAL では、単一デバイスで複数のユーザーが認められますが、一度に 1 名のユーザーのみ使用することができます。

事例: Azure DevOps Server について教室で団体向けに指導を行っているあるトレーニング施設は、Azure DevOps Server のライセンスを取得する必要があります。教育施設は、教室内の各コンピュータにつきデバイス CAL を購入することができます。この場合、各デバイス CAL により、ユーザーは、人数に制限なく (ただしデバイスごとに一度に 1 名ずつ)、単一のデバイスからサーバー ソフトウェアにアクセスすることができるため、学生は、人数の制限なく、これらのマシンを使用することができます。

CAL の非調整を軽減することにはならないマルチプレキシングおよびプーリング

Azure DevOps Server に直接アクセスするユーザー数またはデバイス数が軽減されることになるハードウェアおよびソフトウェア (場合により、「マルチプレキシング」または「プーリング」ということがあります) によっても、必要とされる Azure DevOps Server CAL の数が減ることはありません。何らかの方法で (上記の [クライアントライセンスを必要としない場合](#) のシナリオを除きます) Azure DevOps サーバーにアクセスするエンドユーザーまたはデバイスは、ソフトウェアに直接または間接的に接続しているかを問わず、適切なライセンスを有することが求められます。

事例 1: ある組織は、ユーザーが Web サイトを通じて作業項目を追加し、バグを解決し、またはビルドを開始できるような形で、Azure DevOps Server に接続されるイントラネット Web サイトを導入しています。1 台のデバイス (Web サーバー) のみが Azure DevOps Server に直接接続されている場合であっても、不具合および拡張要請を登録する以外の目的で、Azure DevOps Server にアクセスするために Web サイトを使用する各人は、CAL を有している必要があります。(デバイス CAL は、特定の時点で指定のデバイスにログインしている 1 名のユーザーのみをサポートするため、Web サーバーに使用することはできません。) 同じ物理 Web サーバーで実行する 2 つ目の Web サイトにアクセスする場合、Azure DevOps Server にアクセスしなければ、CAL は必要ありません。

事例 2: 複数の人が、開発環境にアクセスするために、ターミナル サービスを実行するサーバーに同時にリモート アクセスしています。こうした複数のユーザーは 1 台のデバイスを「共有」していますが、各ユーザーは、CAL を有している必要があります。(デバイス CAL は、特定の時点で指定のデバイスにログインしている 1 名のユーザーのみをサポートするため、デバイス CAL を使用することはできません。)

リリース管理

Azure DevOps Server 2019 で新しい Web ベースのリリース管理機能を導入することで、リリースを管理および構成する機能は、Azure DevOps Server CAL を有するすべてのユーザー (Visual Studio サブスクリイバーを含みます) が利用可能です。ユーザー (アクセスレベルがステークホルダーとして設定されているユーザー) がリリースを承認する場合、料金は発生しません。

各 Azure DevOps Server は、リリース管理を用いて一度に 1 つのリリースを導入することができます。これは、サーバー ライセンスの一部に含まれます。以下のそれぞれにおいて、さらに一組の同時配置が可能になります。Visual Studio Enterprise サブスクリプション (Visual Studio Enterprise サブスクリプション、Visual Studio Enterprise – 年間、または Visual Studio Enterprise – 月間)、ならびに有料の Azure DevOps Build および Release Private Pipelines。

機能	提供先:
リリース管理を使用した同時導入	<ul style="list-style-type: none">一組の同時配置は、Azure DevOps Server 2019 に含まれています。以下のそれぞれにおいて、さらに一組の同時配置が可能になります。Visual Studio Enterprise サブスクリプション (Visual Studio Enterprise サブスクリプション、Visual Studio Enterprise – 年間、または Visual Studio Enterprise – 月間)有料 Private Pipelines

リリース管理の詳細についてはこちらをご覧ください。 <http://www.visualstudio.com/explore/release-management-vs>

Azure DevOps Server のダウングレード権

マイクロソフトは、Visual Studio Azure DevOps Server 2019 のダウングレード権を付与します。これにより、お客様は、Azure DevOps Server 2019 のライセンスを取得したバージョンに実装されている Azure DevOps Server の旧版 (Team Foundation Server 2005、2008、2010、2012、2013 または 2015 など)、および SQL Server 2016 Standard の旧版を、Azure DevOps Server

をサポートするデータベースとして使用することができます。ダウングレード権は、Azure DevOps Server CAL にも適用されるため、Azure DevOps Server 2019 CAL は、Team Foundation Server の旧版にアクセスする際にも使用することができます。

ソフトウェア アシユアランスに基づく Azure DevOps Server

ソフトウェア アシユアランスでは標準的ですが、お客様がボリューム ライセンスにおいて、Visual Studio Azure DevOps Server 2019 が利用可能時になった時点でソフトウェア アシユアランスに基づき Visual Studio Team Foundation Server 2010 のライセンス および CAL を有していた場合、お客様のサーバーおよび CAL は、Visual Studio Azure DevOps Server 2019 のサーバーおよび CAL となります。それ以外の場合、お客様は、Visual Studio Azure DevOps Server 2019 にアクセスするには、Visual Studio Azure DevOps Server 2019 サーバーおよび CAL を購入するよう求められます。

Azure DevOps とローカルビルドサーバーの接続

お客様の Azure DevOps アカウントをセットアップして、Team Foundation Build Services を実行するローカルサーバー上でビルドを実行することが可能です。ビルドサーバーを実行するサーバーに関するライセンス要件は、ローカルの Azure DevOps Server から、または Azure DevOps からコマンドを受け取るかを問わず、違いはありません。少なくとも、Azure DevOps Server ライセンス、オペレーティングシステムライセンス (および場合により CAL) が必要であるほか、ビルドの実行につながる行為を行うすべてのユーザーは、Azure DevOps Server CAL が必要になります。そのため、Azure DevOps のコードをチェックし、次にローカルビルドサーバーへのビルドを開始するユーザーは、Azure DevOps Server CAL が必要になります。Azure DevOps Server CAL は、有料の Azure DevOps ユーザーごとに提供されます。

Azure DevOps Server へのアクセス方法

Azure DevOps Server 2019 データには、以下を含む複数の方法でアクセスすることができます。

- Visual Studio Enterprise、Visual Studio Professional、Visual Studio Community (無料)、および Visual Studio Test Professional に含まれる [Visual Studio Team Explorer](#)。
- Eclipse ベース環境から Azure DevOps Server に接続可能にする [Visual Studio Team Explorer Everywhere](#)。Team Explorer Everywhere は無料です。
- Team Explorer クライアントのブラウザベースバージョンである、**Visual Studio Team Web Access**。
- Team Explorer と共に提供されるプログラム用のアドインを使用して Azure DevOps Server にアクセスすることができる、**Microsoft Office Excel または Microsoft Office Project**。
- 無料である PowerPoint Storyboarding のアドイン。
- Azure DevOps Server 2019 アプリケーション プログラミング インターフェイス (API) または他の手段を通じて、**プログラマ的に利用可能**。

Azure DevOps Server にアクセスする際にどの方法を利用しても、お客様は、クライアントについてライセンスを取得する必要がありますが、上記の[クライアントアクセスライセンスを必要としない場合](#)のセクションに記載のシナリオの場合を除きます。

導入オプション

企業は、Azure DevOps Server の固有のフレキシビリティとスケーラビリティを利用して、あらゆる規模の開発チームをサポートすることができます。たとえば、Azure DevOps Server は、デスクトップシステム、単一のサーバー上、または二層構造で、導入する

ことができます。どの方法を採用するかにかかわらず、Azure DevOps Server は、それぞれライセンスに関する黙示を含む、オペレーティング システムおよびデータベースを必要とします。

マルチ サーバー (二層) 導入

二層構造に Azure DevOps Server 2019 を導入することができます。ここでは、一層は Azure DevOps Server をホストし、もう一層は、SQL Server バックエンドをホストします。上記のとおり、各層のオペレーティング システムについて別個にライセンスを取得する必要があります。SQL Server 2016 Standard の単一のインスタンスは、お客様が取得する Azure DevOps Server の各ライセンスに導入することができます。

事例: ある組織は、Windows Server 2016 Enterprise の別個のインスタンスで、Windows Server 2016 Enterprise および対応する SQL Server 2016 Standard データベースを実行する単一のサーバーに Azure DevOps Server 2019 を導入します。この場合、単一の Azure DevOps Server 2019 サーバー ライセンス (Azure DevOps Server および SQL Server データ層の両方で構成されます) が使用されますが、両方の Windows Server 2016 Enterprise サーバーにライセンスが必要になります。Azure DevOps Server クライアント アクセス ライセンスが必要となる場合があります。

二層環境に導入される場合、お客様は、ウォーム スタンバイまたはコールド スタンバイ モードで 2 つ目のアプリケーション層サーバーを維持することで、信頼性を高めることができます。ウォーム スタンバイ モードでは、フェールオーバー マシンが実行中ですが、システム管理者は、フェールオーバー機能を手動でアクティブ化します。コールド スタンバイのセットアップでは、フェールオーバー システムは通常、管理者がそのフェールオーバー機能をオンにしてアクティブ化するまでオフのままです。ウォーム スタンバイまたはコールド スタンバイのシナリオを検討している組織は、別途、ロード バランス アプリケーション層の検討を希望する場合があります。どちらのサーバーもデフォルトではアクティブです。

お客様は、データ層で SQL Server のクラスターを用いることで、二層構造で Azure DevOps Server の可用性を高めることができます。この場合、2 つのサーバーで構成されます。SQL Server 2016 Standard 以上でサポート対象ですが、クラスタリングは、複数の物理 SQL Server インスタンスを単一の仮想インスタンスに組み合わせることで、高可用性を実現します。クラスタ化された、二層のサーバー データ 層の構成では、サーバーごとに Windows Server および SQL Server 2016 ライセンスが必要になりますが、追加の Azure DevOps Server CAL は必要ありません。SQL Server 2016 Standard を実行するクラスター内の各サーバーは、SQL Server の別個のインスタンスとみなされるため、お客様は、インスタンスの数を対象とするために十分な Azure DevOps Server 2019 ライセンスを有しておくか、または SQL Server のライセンスを別個に取得する必要があります。

Azure DevOps Build Services

Azure DevOps Server のビルド自動化機能により、ソフトウェアは、同じサーバー上でまたは別個のシステム上で自動化ビルドを実行することができるほか、ビルド プロセスの一環として、品質テストまたはパフォーマンス テストを実行することができます。「ビルド サーバー」の実装は、Azure DevOps Server 2019 に含まれるビルド エージェントを使用することで達成されます。ビルド サーバーは、Azure DevOps Server を実行するサーバーと分離することができ、ビルド サーバーには、Azure DevOps Server CAL または サーバー ライセンスは必要ありません。

Lab Management ライセンス

マイクロソフトの Visual Studio Lab Management ソリューションにより、既存の Visual Studio アプリケーション ライフサイクル管理プラットフォームを、統合 Hyper-V ベースの仮想マシン管理を含めるよう拡張します。Lab Management は、ビルド プロセスを最適化し、リスクを軽減し、市場までの時間を短縮するため、複雑な構築、テストおよび導入のワークフローを自動化します。これ

は、仮想環境のセットアップ、分解および既知の状態への復元に関連する、開発およびテスト費用を削減するのに役立ちます。Lab Management は、開発、QA および運用部門の間の協力を効率化することで、より高い ROI を達成し、マイクロソフトのすべての ALM ソリューションのベネフィットを実現するのに役立ちます。

Lab Management コンポーネント

異なるソフトウェアは、Lab Management の機能を有効にするために複数のマシン間で調和して機能します。一般的な構成には、次のものが含まれます。1. **仮想マシンのホスト:**

- a. オペレーティング システム: Windows Server 2008 R2 または 2012
- b. その他のソフトウェア: System Center – Virtual Machine Manager 2008 R2 または 2012
- c. 仮想マシン上: Visual Studio Agents 2019

2. **Azure DevOps Server:**

- a. オペレーティング システム: Windows Server 2008 R2 または 2012
- b. その他のソフトウェア: Visual Studio Azure DevOps Server 2019、SQL Server 2019 Standard、および Visual Studio Test Controller 2019 (Visual Studio Enterprise サブスクリプション、Visual Studio Enterprise – 年間、MSDN Platforms、および Visual Studio Test Professional サブスクリプションのサブスクリイパーに提供される Visual Studio Agents 2019 の一部)

3. **クライアント:**

- a. オペレーティング システム: Visual Studio ソフトウェアを実行することができる Windows 8 またはその他のマイクロソフトのオペレーティング システム
- b. その他のソフトウェア: Visual Studio Enterprise 2019

仮想マシンのホストと Azure DevOps Server を統合することは可能ですが、パフォーマンスの点では望ましくないことがあります。また、複数の層では Azure DevOps Server を導入することが望ましい場合もあります ([マルチ サーバー \(二層\) 導入](#) 参照)。

Lab Management ライセンス

Azure DevOps Server 2019 で Lab Management 機能を利用するには、以下のライセンスを取得する必要があります。

1. ラボ環境を構成および管理するために Microsoft Azure Test Plan 2019 を使用する各人は、使用している製品によって、**Visual Studio Enterprise サブスクリプション**、**Visual Studio Enterprise – 年間**、**MSDN Platforms** または **Visual Studio Test Professional サブスクリプション**のいずれかのライセンスを取得する必要があります。Microsoft Azure Test Plan は、Visual Studio Test Professional および Visual Studio Enterprise と共にインストールされます。仮想マシン上で実行する Visual Studio Agents 2019 ソフトウェアとの相互作用 (これは、Microsoft Azure Test Plan 2019 を通じて行われ、Microsoft System Center Virtual Machine Manager 2008 R2 または 2012 を使用します) も、Visual Studio Enterprise サブスクリプション、Visual Studio Enterprise – 年間、MSDN Platforms、および Visual Studio Test Professional サブスクリプション に基づきライセンス許諾されます。

2. **Azure DevOps Server を実行するオペレーティング システム** Azure DevOps Server 2019 (SQL Server 2016 Standard の使用を含みます) は、Visual Studio サブスクリイバーに提供されます。(詳細については、[Visual Studio Azure DevOps Server 2019 ライセンス](#)を参照してください。[Azure DevOps Server に関するクライアント ライセンス要件](#)についての詳細も含まれます。)ただし、Azure DevOps Server (サーバー、ビルド サーバー、およびデータベースを含みます) を実行するために使用されるオペレーティング システムは、別個のオペレーティング システム上でそれぞれ実行することができますが、常に別個に取得する必要があります。
3. **仮想マシン ホストにアクセスする (またはこのホスト上の仮想マシンにアクセスする) 各担当者は、アプリケーションの開発またはテストのために使用しているソフトウェアを含む Visual Studio サブスクリプションを有している必要があります。**これらの担当者がラボ環境を作成する必要がない場合、または仮想マシン上で実行する Visual Studio Agents ソフトウェアと相互作用する必要がない場合は、低レベルの Visual Studio サブスクリプションでも十分な場合があります。仮想マシン ホスト、Windows Server 2008 R2 のホスト オペレーティング システムについては、このホスト上で実行するソフトウェアが開発およびテストのためにのみ Visual Studio サブスクリイバーにより使用されている限り、別個にライセンスを取得する必要はありません。

付録

詳細情報

Visual Studio: <http://visualstudio.microsoft.com>

Visual Studio を購入する: <https://visualstudio.microsoft.com/products/how-to-buy-vs>

サブスクリプション オプションと特典を比較する: <https://www.visualstudio.com/products/compare-visual-studio-2019products-vs>

Visual Studio を評価する

特定の Visual Studio 製品の 90 日間の試用版は、<http://visualstudio.microsoft.com> でダウンロードすることができます。セレクト契約またはエンタープライズ契約に基づくマイクロソフト ボリューム ライセンスの顧客は、購入を要請する前の 60 日間、いずれかの Visual Studio 製品をダウンロード、インストール、および評価することができます。試用版ソフトウェアを使用して構築されたアプリケーションは、運用環境に導入することはできません。

トレーニング環境のライセンス

Visual Studio またはその他のマイクロソフト ソフトウェアを含め、第三者にトレーニング サービスを提供する組織は、Microsoft Partner Network 内の[ラーニング コンピテンシー](#)で有効である必要があります。このコンピテンシーを獲得することにより、パートナーは、法的に取得した (別個の購入または Microsoft Partner Network の会員となった場合の特典であるライセンスなど) ソフトウェアにつき、[クラスルーム ライセンス](#)の権利を付与されます。

エンタープライズ契約、セレクト契約またはセレクト プラス契約に署名した組織は、かかる組織の敷地内の専用のトレーニング施設内で、マイクロソフト ボリューム ライセンス プログラムを通じて提供される製品につき、最大 20 件のライセンスを使用することが認められます。

上記 2 つのオプションのほかに、Microsoft.com から入手可能な試用版ソフトウェアを使用するか、またはトレーニング用に使用されているソフトウェアのライセンスを購入する必要があります。

Visual Studio サブスクリプションの移行の履歴

Visual Studio の特定のリリースにおいて、Visual Studio サブスクリプション オファリングは変更されており、その時点で既存のサブスクリバラーが新しいサブスクリプション レベルに変換されており、多くの場合、著しく改善された機能と特典を提供しています。

Visual Studio 2015

有効な Visual Studio Ultimate with MSDN または Visual Studio Premium with MSDN サブスクリプションを有する顧客は、自動的に、Visual Studio Enterprise with MSDN に移行されました。

MSDN OS は現在販売されていません。有効な MSDN OS のサブスクリバラーは、Visual Studio Professional サブスクリプションに更新することができます。

Visual Studio 2013

Visual Studio 2013 のリリースでは、Visual Studio サブスクリプションの移行は行われませんでした。

Visual Studio 2012

2012 年 8 月現在で有効な Visual Studio Professional with MSDN Embedded (MSDN Embedded ともいいます) のサブスクリプションを有していた顧客は、自動的に、Visual Studio Professional with MSDN に移行されました。その他のすべてのサブスクリプションは、その後継バージョンに直接マッピングされました。

2010 年のサブスクリプション レベル:	2012 年 8 月に 2012 年サブスクリプション レベルに変換:
Visual Studio 2010 Ultimate with MSDN	Visual Studio Ultimate 2012 with MSDN
Visual Studio 2010 Premium with MSDN	Visual Studio Premium 2012 with MSDN
Visual Studio Test Professional 2010 with MSDN	Visual Studio Test Professional 2012 with MSDN
Visual Studio 2010 Professional with MSDN	Visual Studio Professional 2012 with MSDN
Visual Studio 2010 Professional with MSDN Embedded	Visual Studio Professional 2012 with MSDN
MSDN Operating Systems	MSDN Operating Systems

Visual Studio 2010

Visual Studio 2010 が 2010 年 4 月に開始された時点で、有効な Visual Studio サブスクリプションを有していた顧客は、以下のロジックに従い移行されました。

2008 年サブスクリプション レベル:	2010 年 4 月に 2010 年サブスクリプション レベルに変換:
Visual Studio Team System 2008 Team Suite with MSDN Premium	Visual Studio 2010 Ultimate with MSDN
Visual Studio Team System 2008 Architecture Edition with MSDN Premium	Visual Studio 2010 Ultimate with MSDN

Visual Studio Team System 2008 Development Edition with MSDN Premium	Visual Studio 2010 Ultimate with MSDN
Visual Studio Team System 2008 Test Edition with MSDN Premium	Visual Studio 2010 Ultimate with MSDN
Visual Studio Team System 2008 Database Edition with MSDN Premium	Visual Studio 2010 Ultimate with MSDN
Visual Studio 2008 Professional Edition with MSDN Premium	Visual Studio 2010 Premium with MSDN
Visual Studio 2008 Professional Edition with MSDN Professional	Visual Studio 2010 Professional with MSDN
MSDN Operating Systems	MSDN Operating Systems

この移行は、「The Ultimate Offer」と呼ばれていました。さらなる詳細については、こちらをご覧ください:

<http://msdn.microsoft.com/subscriptions/ff625864.aspx>

Visual Studio 2008

Visual Studio 2008 製品ラインに特別な移行はなかったため、2005 年のサブスクリプションは、2008 年の後継バージョンに直接マッピングされました。

Visual Studio 2005	Visual Studio 2008
Visual Studio 2005 Team System Team Suite with MSDN Premium	Visual Studio Team System 2008 Team Suite with MSDN Premium
Visual Studio 2005 Team Edition for Software Architects with MSDN Premium	Visual Studio Team System 2008 Architecture Edition with MSDN Premium
Visual Studio 2005 Team Edition for Software Developers with MSDN Premium	Visual Studio Team System 2008 Development Edition with MSDN Premium
Visual Studio 2005 Team Edition for Testers with MSDN Premium	Visual Studio Team System 2008 Test Edition with MSDN Premium
Visual Studio 2005 Team Edition for Database Professionals with MSDN Premium	Visual Studio Team System 2008 Database Edition with MSDN Premium
Visual Studio 2005 Professional Edition with MSDN Premium	Visual Studio 2008 Professional Edition with MSDN Premium
Visual Studio 2005 Professional Edition with MSDN Professional	Visual Studio 2008 Professional Edition with MSDN Professional
MSDN Operating Systems	MSDN Operating Systems

Visual Studio 2005

Visual Studio 2005 の移行は、マイクロソフトの ALM オファリング、マイクロソフト ブランドの Visual Studio Team System の開始を含め、重要な移行でした。

Visual Studio 2005 以前の Visual Studio サブスクリプションレベル	移行パス
MSDN Universal	<p>顧客は、Visual Studio 2005 Team Edition のロールの選択権を取得しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Visual Studio 2005 Team Edition for Software Architects with MSDN Premium • Visual Studio 2005 Team Edition for Software Developers with MSDN Premium • Visual Studio 2005 Team Edition for Testers with MSDN Premium • Visual Studio 2005 Team Edition for Database Professionals with MSDN Premium
MSDN Enterprise	<p>すべての有効な MSDN Enterprise サブスクリイバーは、自動的に、Visual Studio 2005 Team Edition for Software Developers with MSDN Premium に移行されました。</p>
MSDN Professional	<p>すべての有効な MSDN Professional サブスクリイバーは、自動的に、Visual Studio 2005 Professional Edition with MSDN Professional に移行されました。</p>

ライセンスに関するホワイト ペーパーの変更ログ

リリース日	変更の範囲
2017 年 3 月	<ul style="list-style-type: none"> • Visual Studio 2017 ライセンスを対象とする初版